科学技術高校・理科通信
生徒による
いきもの記
Vol.110 2024.6.3
1年1組 千葉 美文（みふみ）
（科学研究部生物化学班・鳥研究）

圧巻！水鳥たちの巣とフンの臭い！
都会の中のサギ山

初めまして。いきもの記に初めて投稿させていただきます。1年で鳥班の千葉です。鳥見歴は7年目で、好きな鳥はツミ（詳しくはVol.76,86参照）です。よろしくお願いします。

さて、初回はこの前に行った横十間川親水公園のサギ山について書いていこうと思う。事の始まりは鳥班の先輩方と話しているときに、「学校から南に少し歩いた所にある**横十間川親水公園にサギ山がある。**」と教えていただいた事だった。サギ山とは何かというと、コサギやチュウサギ、ダイサギといった一般的に“シラサギ”と呼ばれる3種のサギや、全長が大きく身近なアオサギ、動物園や水族館のペンギンの餌を貰いにくることで有名なゴイサギなど**多くの種類のサギによって作られる集団繁殖地のことだ。**“山”という字がついているが、決して山地だけにあるわけではなく水辺のそばにある林などにできる。山の字はおそらく山のように巣があるという意味だろう。私は鳥見を始めて今年で7年目に突入するが、街の鳥や森の鳥ばかり見ていたので水鳥に疎く、近所になかったこともあって1回もサギ山を見たことがなかった。なので、絶対に行こうと心に決めた。

5月、時間があったので横十間川親水公園のさらに東にある仙台堀川公園のツミの巣をチェックするついでにサギ山を見に行った。サギ山がある場所につくと、**圧巻であった。**巣の量はとてつもなく、1本の木や1かたまりの竹藪にまるで**団地のようにびっしりと巣があり**、サギ山が形成されている島（人口中州？）に**収まりきらなそうなほどであった。**当然、**巣の密度はとても高く**、巣と巣の間がサギ1羽分の間隔しかない所もあった。長らく1箇所に1つがいしか巣を作らないツミばかり見てきたので、1箇所に大量の巣があるのは新鮮で、特に巣と巣の間隔が想像以上に狭かったので、かなり衝撃を受けた。（水元公園にあるカワウの集団繁殖地を行くたびに見るが、巣と巣の間隔は広い。）だが、私の衝撃はそれだけに留まらなかった。落ち着いて観察し始めると、**気になったのはとてつもない“臭い”だ。**“匂い”ではなく“臭い”と書いたのはもちろんくさいからである。鳥類は哺乳類と違って嗅覚を重視しないため、猫などとは違い、野外で排泄物の臭いが気になることは基本的にない。私も鳥のフンの臭いなど気にしたことがなかった。しかし、チリも積もれば山となるとはこのことで、**サギたちのフンが積もりすぎてとてつもない悪臭が漂ってくるのだ。**さらに、ここが田舎ならまだマシなのだが、**江東区の真ん中で周りはマンションばかり**なので苦情が来て潰されないかと少し心配になった。しかし、潰されていないということは人間と鳥が共生できているということなのでとても嬉しく感じた。

コサギの巣　このようなサギの巣がサギ山には無数にある。

カワウの巣　本文では書かなかったが、サギ類だけでなくカワウもいる。

密集するコサギの巣（赤丸がコサギの巣）
本当に間隔が狭い。

撮影日：2024年5月12日